

福岡県篠栗町

きせき

議会だより

No. 212



さあ、防災の話しをしよう。

篠栗町消防団操法大会

意見交換会 自主防災組織 2

6月定例会 6

ここをどうする!?(8人が一般質問) 9



令和4年6月議会号

特集 意見交換会

さあ、防災の 話をしよう。

第24回 自主防災組織

要支援者の救助を目的に各区に創設された自主防災組織。今では、当初の目的を超えて、地域防災に大きな役割を持つ熱心な組織が増えつつあります。

大半は区長さんを中心に、地域密着のきめ細かい活動が行われています。

- 城戸区長
- 庄区長
- ベンタナヒルズ区長

組織の成り立ちや活動状況は？

● ベンタナヒルズには、管理組合という組織があるんですが、区と管理組合と共同で防災に当たろうということで、防災委員会を立ち上げて、準備が出来たところから住民の皆さんに周知を図って、災害に備えようというところで活動しているところであります。

● 庄区の場合は、大体2年に1回ぐらいは防災研修会を公民館で行っております。

組合員の防災意識は結構高いものですから、防災訓練を独自でやる組合もありまして、町に

お願いして勉強会や実地など、いろんな訓練をさせていただいております。

● 城戸区というのは、どんどん高齢化社会になってくるということで「城戸区を考えよう」と、去年から区として「わくわく倶楽部」というものを立ち上げました。

ここ一年、じわりじわり浸透しつつあります。

活動を維持するために心がけていることは？

● 防災委員会で災害対策を練っているところなんです。

消火避難訓練と、AEDの操作訓練を今までやってまいりました。

コロナウィルスの蔓延で、マニュアルを作成し、配布した後の勉強会というのがなかなか出来なかつたんです。

防災の主力メンバーの勉強会とか、要支援者の勉強会を、年間8回ぐらい組んでいたんですが全部駄目で、やれませんでした。

今年は、そういう機会を多く設けて、皆さんの意識を高めていこうと考えているところです。

● 区内の半数近くの方々が、組合に入っていないという現状が

ありまして、区全体に浸透させるのは、非常に難しい面があります。

ただ、組合員の防災意識は、高いものがありますので、各組長さんや区役員の皆さんの力を借りながら、少しずつでも浸透させていければと思っております。

元年度までは、救急救命の勉強会、実地訓練、人工呼吸やAED訓練とかをやっていましたけれども、昨年、一昨年は、コロナ禍で実施できなかったというのが現状なので、今年度は何らかの形で進めていければとは思っております。



防災対策専門官
山本 登氏

●城戸区長
葉山 繁美氏

●庄区長
片山 徳美氏

●ベントナヒルズ区長
角野 聖人氏

●去年、老人クラブと一緒に、心肺蘇生法をやりました。「これは定期的にやりたいよね」というようなお話でした。

今年については、心肺蘇生法とか、AEDとか、心構えとかも含めて、訓練を計画しようと考えております。

来られる方が、どうしても偏ってしまつて、同じ人が来られるということなので、それ以外の方にも来てもらつて、防災に対する意識が上がっていけばいいなと思います。

要支援者への対策は？

●やはり「救うべきは災害弱者である」と。

高齢者は、老人会とか、いきいきサロンなどで把握はだいたい出来ているし、小さなお子さんを抱えている家庭も、区民票をみれば分かるわけです。

障がいをお持ちの方というのが、町からも、災害のときには「要支援者」の支援をお願いした

ということと、申し出てくださいと呼びかけているんですが、これがなかなか出てこないんですよ。

だから、残念ながら防災委員会では、要支援者の把握っていうのは出来ていません。

障害等級を持つてなくても、「高齢だから支援をしてほしい」と、いろいろな方もいらっしゃるわけですね。

町が募る場合は、障害等級とか、いろいろ条件がついているので、少し緩和するなり、やり方を変えるなりして、把握に努めていただければと思います。

●福祉協力員さんに、いきいきサロンを運営していただいています。それと、各民生委員さんが、独居老人宅の訪問や確認に回っております。

また、組長さんに近隣の状況を教えていただいておりますので、ある程度のところは、把握はできております。

●民生委員さん、それから福祉協力員さん等で把握をされて、私も把握しております。

わくわく倶楽部などにも参加されない独居老人の方がおられますので、そのときは民生委員さんをお願いをして、確認をしてもらっているという実態です。

昨年、避難指示が出ましたが、そのときのエピソードは？

●公民館を開放いたしましたして、12名ぐらいお見えになりました。一晩だけですけれども、避難の受け入れをさせていただきました。



片山区長

●組長さんに「息子のところに行きます」と、それから「乙犬のホテルに泊まります」という

ような連絡をされて、私のほうにも連絡が来ました。

自分の命は自分で守る、また家族を守る、そして区の中から犠牲者を出さないというような考えの方が増えてきたと実感しております。

備蓄はしてありますか？

●ペンタナヒルズ区は、他区と違って公民館がありません。避難した時に泊まるところがないんですよ。煮炊きもできませんから、災害の時、特に大地震の時に備えて、「自助」を声高に、「自宅が一番安全なんです」という話をしております。

停電時はエレベーターも動かず外部との往来もできませんから、食料とか水の備えを、各家庭で1週間から10日ぐらいを目安に、準備をしておいてくださいという話をしております。

●災害時の備蓄の食料・水は、ある程度、公民館に用意しております。

毎年度、決まった数だけ購入

して、消費期限が近くなったものは寄附するようにしています。

●毛布など、ちょっとしたものはありますけど、食料品なんかは一切置いておりません。

炊き出しの準備はあります。

次世代の防災リーダーづくりは？

●篠栗町では、防災士を養成していこうということで、助成金を出したり、防災士養成講座を紹介していただいたりしているんですけれども、これからは、資格取得後の研修とか訓練などを織り込んで、実践的な防災士を育てあげることが、町の防災力維持拡大につながるんじゃないかと思っています。



角野区長

●次世代の人材ですか。見つけるのは、なかなか難しい問題で、実際、庄区の中でも役職の人は高齢者がかなり多くいらっしゃいます。

防災士に関しては、毎年募集して、昨年度は、3名資格を取っていただきました。若い人達ばかりですので、その人たちが行政の中に入れていくようにしていければと思っています。

いろんな形で募って、地道にやっていくしかないかなと思っています。

●私たちよりも少し年下の人に、しっかりコミュニケーションをとっていこうと考えております。

実際、城戸に住んで、消防団に入っている方は、ごく数えるぐらい。

災害や火事が起きたとき、来たらもう火が消えていた、という感じになると思っています。

とはいっても、区はずっと続いていくわけですから、自分たちが手本となって後進をしっかり指導していかないとかな、というような考えております。



葉山区長

議会だよりの印象は？

●ある程度、状況や問題点が分かるということでは、大変有効な、広報紙じゃないかなと思いますね。

ただ、あまり内容を固くすると、なかなか読む気にならないので、打ち解けるところは打ちとけて、入り込みやすいように、工夫を凝らしていただければと思います。

●毎回読ませていただいています。

たまには傍聴にも来るんですが、議員さんと行政側のやり取

りを編集するのも、多分、ご苦労されていると思います。

内容は、なかなかいいんじゃないかなと私は思っております。

今後も、活躍いただきたいと思っています。

ヨイシヨじゃないんですけど（笑）

●私も、一応、読んでいます。どれも目は通しておりますけど、関心があるかと言われたら、そこそこかな、という気がするんですよね。

篠栗駅に降りたら、えらく田舎やなあ、というような感じを受けます。都市計画辺りをもう少し、突っ込んでから、篠栗町を活性化させてもらいたいなというのがあるんですね。

山本防災対策専門官から

自主防は、阪神・淡路大震災のときに「自助・共助・公助」が重要だということから始まったものではありますけれども、そこで頑張れと言っても限界があるというのは当然だと思います。

最終的には、地域防災力を高めて、危機のときに、まず身を安全なところに移動させるということが、一番に重要なんじゃないかと思うんです。

前のところで、私も防災講座なんかをやらせていただいていたので、研修会とかに呼んでいただければ、フェイス・トゥ・フェイスで、そこにあった問題点をみんなで考えることができると思います。そういう面では、僕としては非常にありがたいと思います。

今回は、篠栗町の中でも居住環境に特徴のある3つの区の区長さん方に集まっていたきました。

高層集合住宅のペンタナヒルズ区、戸建て住宅や集合住宅が密集する庄区、そして、山間部の城戸区と、環境が違えば、災害への構えから避難のあり方で、その地域の住民にとって何が最良なのか、お話しをうかがう中で、違いが如実に現れました。

自主防災組織の活動は、「共助」または、「近助」にあたりますが、一人一人が、自身の状況に照らして、普段から、まず、「自助」を考え、できなければ、「共助」「公助」に頼るというように、段階的な避難のあり方を考えておくことが大切だと改めて感じました。

区長として、たいへんお忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。

6月定例会

6月6日から14日まで、9日間の会期で開催しました。文教厚生常任委員会、予算特別委員会において、町長提案の指定管理者の指定、補正予算の、6議案を審査しました。

また、本会議にて、すべての議案を原案のとおり可決しました。

各議案に対する賛否一覧を8ページに掲載しています。

児童館の指定管理者決定 指定管理者の指定について（議案第25号）

本議案は町内の児童館3館を指定管理者制度の導入にともない事業者が決定されたもの。この制度を導入することでサービスの提供がスムーズに行え、町としての業務負担も軽減が見込まれる。

指定管理者の名称

エフコープ生活協同組合

指定の期間

令和4年9月1日～令和8年3月31日

Q & A

問 費用負担はどのようなのか。



すぎのこ児童館

答

額としては300万円増加する。施設の軽微な修繕費等は事業者負担となるので、その分減額が見込まれる。

問

問い合わせは他にあったのか。

答

最終的にエフコープに決定された要因は、最も考慮したのは、災害などもしものことが起こった場合、人的な対応ができるだけ早く行ってもらえると考えた。

問

既存の児童館の職員の方は、同意を得て、引き続き働いて頂く予定である。

各会計補正予算（議案第26号～30号）

会計別の補正予算額は下記のとおり。

（万円未満四捨五入）

会 計	補 正 額	補正後予算額
一般会計	1億6271万円	108億6516万円
国民健康保険特別会計	△167万円	27億7319万円
後期高齢者医療特別会計	△187万円	4億4624万円
水道事業会計（収益的支出）	△306万円	5億5519万円
流域関連公共下水道事業会計（収益的支出）	△181万円	8億4617万円

○一般会計の主な補正は、民生費【低所得者子育て世帯生活支援特別給付金支給事業および低所得者子育て世帯生活支援特別給付金支給事業】に4696万円、商工費【若杉キャンプ場公衆トイレ設置工事】に5822万円など、特別会計・事業会計は、人事異動・給与条例改正に伴う人件費の補正。

臨時会

5月16日に臨時会を開催しました。

町長提案の条例案・専決処分・補正予算、3議案を審査しました。

また、3月定例会で継続審査となっていた「字の区域の変更及び町(丁目)の区域の設定について」の審査を行いました。

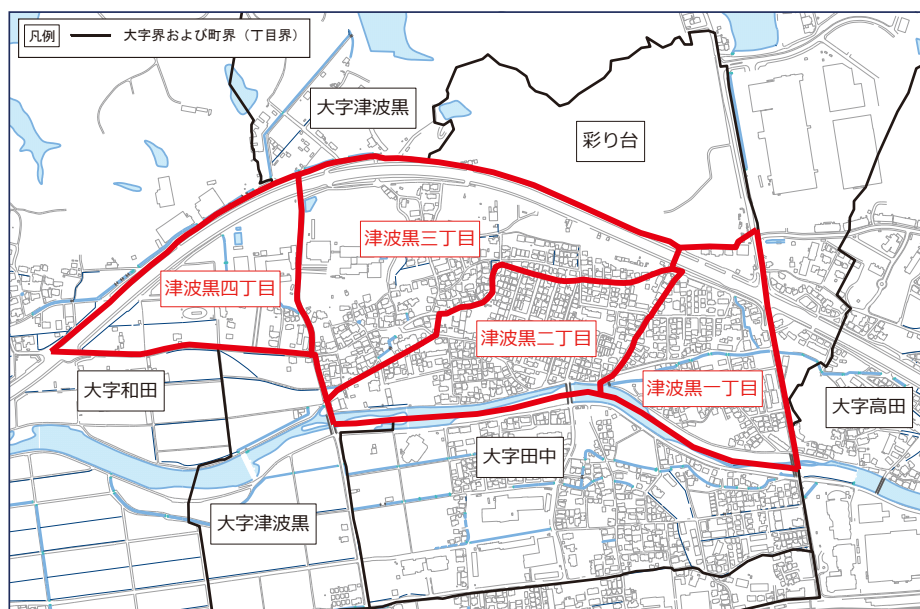
継続審査の住居表示原案どおり可決

字の区域の変更及び町(丁目)の区域の設定について

(議案第9号)

内容は、「大字津波黒」、「大字田中」、「大字和田」、「大字高田」の一部区域を廃止し、新たに「津波黒1丁目」から「津波黒4丁目」までの町(丁目)を設定するもの。

当該議案については、住居表示に関する法律第5条の2第2項の規定に基づき、変更の請求が提出された。よって、同法の規定により、あらかじめ公聴会を開催し、区域内住民から意見を聞いた後でなければ、議会の議決をすることができないと定められており、公聴会を開催し再審査を行い、本臨時会にて可決された。



【公聴会の内容】

4月26日開催 反対賛成1名を常任委員会にて選定。

反対の立場の意見陳述

●「津波黒」、「田中」、「明治」といった現地名を回答した数が39%あるが、それ以外の約60%が新しい町名を望んでいる。

●行政区は変更にならないということで実施されているが、町名と行政区が違えば混乱を招きかねない。また、転入者は分かりづらいと思うことや、町の活性化を考えると、新しい町名にした方がよいと思い反対する。

賛成の立場の意見陳述

●篠栗町住居表示実施基準要綱の「町の名称」規定では、町の名称を定めるときは、なるべく従来の名称に準拠し、由緒ある、親しみ深いものとの記載があり、「津波黒」は歴史があり、由緒ある名前であると思うこと。

●アンケート結果を踏まえ、関係行政区内で構成する名称等検討委員会で検討した結果、3分の2以上の賛成で「津波黒」と決定し、住居表示審議会に諮問され「原案は適当」との答申を得ていることは尊重すべきと思い賛成する。

Q & A

問 実施したアンケートは、あくまでも審査の参考資料か。

答 検討委員会における審査の参考資料である。
問 アンケートの実施は、担当課長の判断で行うのか。

答 対象地区の区長に実施の打診を行い、了解を得て実施している。

一般会計補正予算（議案第24号）

補正予算額は下記のとおり。

（万円未満四捨五入）

会 計	補 正 額	補正後予算額
一般会計	7157万円	107億 246万円

主な補正については下記のとおり。

歳入の主なもの

国庫支出金	6787万円
-------	--------

歳出の主なもの

衛生費 新型コロナワクチン接種事業費	5544万円
商工費 プレミアム付商品券補助金	1000万円

要望

住居表示整備事業は、現在、令和5年度実施区域で行われているが、地域住民の理解が得られるよう周知徹底し、かつ慎重に進めてもらいたい。

答

選出については区長に依頼し、関係行政区の住民の方から選ぶ形で、対象区域内に住んでいない場合でも選出できる。

問

住民の方が納得するよう、最終的には各区から選出された検討委員会に委ねる形で進めている。委員の選定は、住居表示の対象区域に住んでいる人から選出するのか。

答

最終的には、名称等検討委員会に委ねる形で進めたのか。

問

議 決 結 果 一 覧 表

	議案番号	議 案 名	議決結果
5月臨時会	9	字の区域の変更及び町（丁目）の区域の設定について	賛成多数可決 （反対：荒牧・横山）
	22	専決処分の承認を求めることについて（専決第3号） 〔篠栗町税条例等の一部を改正する条例の制定について〕	全員賛成承認
	23	篠栗町一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	全員賛成可決
	24	令和4年度篠栗町一般会計補正予算（第1号）について	全員賛成可決
6月定例会	25	指定管理者の指定について	賛成多数可決 （反対：横山）
	26	令和4年度篠栗町一般会計補正予算（第2号）について	全員賛成可決
	27	令和4年度篠栗町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について	全員賛成可決
	28	令和4年度篠栗町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	全員賛成可決
	29	令和4年度篠栗町水道事業会計補正予算（第1号）について	全員賛成可決
	30	令和4年度篠栗町流域関連公共下水道事業会計補正予算（第1号）について	全員賛成可決

いっしょにやってみよう！

8人が一般質問

1. 藤木 高裕 議員…………… 10
・高齢者へ優しいまちづくりを
2. 荒牧 泰範 議員…………… 11
・教育長の教育方針は
3. 村瀬敬太郎 議員…………… 12
・ゼロカーボンシティの概要は
4. 田辺 弘之 議員…………… 13
・ランドセルなど、登下校時の持ち物の配慮は
5. 岩下 勝正 議員…………… 14
・篠栗校区内の住宅地開発による児童生徒数増加に対するインフラは
・地域担当職員（地域サポーター）制度の活動状況は
6. 横山 和輝 議員…………… 15
・水利権者の了解なしに県に申請したのはなぜか
7. 栗須 信治 議員…………… 16
・若年層の低投票率対策は
8. 古屋 宏治 議員…………… 17
・火災時の初期消火（消火栓）対応は

一般質問とは、議員が執行部に、その町の行政全般の事務執行状況や政策方針などについて、報告や説明を求め、所信や疑問を尋ねることです。

年4回開催される定例会の中で行うもので、臨時会では行いません。

ここに掲載したのは要約で、質問者本人の原稿をもとに作成しています。
議事録の全文は議会事務局・町立図書館・クリエイト篠栗・オアシス篠栗・各公民分館および町ホームページで閲覧できます。

高齢者へ優しいまちづくりを

まちづくり課長「実現を目指して取り組みたい」



藤木 高裕

問

篠栗町の人口は、令和4年4月末3万1105人、5年前の平成30年4月末3万1514人と比べて400人ほど減少している。

国の研究機関の仮定に基づく、2060年には2万5343人となる試算である。町としては、2060年に2万9000人を目標すと目標を掲げており、是が非でも達成して欲しい。

今回は私から小さな取り組みではあるが、確実な一歩につながると思い提案したい。

大野城市の平野台区で「高齢者のイス」というプレートを設置し、休憩場所や高齢者の引きこもりを防ぐという取り組み

がなされている。

「休憩場所として、民家の方に頼んでプレートの設置許可をもらっている。平野台区は坂道が多く、買い物をして坂道を登ってくると非常に大変な地域だ。壁によりかかって休憩している姿を見て、休憩場所を作ろうと思った。」と平野台区長から丁寧な説明を受けた。

篠栗町も坂道が多く、買い物に歩いて行かれる方やコロナ禍で引きこもりがちの方も多い。町の中にちよつとした休憩所があれば歩きやすい。前向きに検討してはどうか。

答【まちづくり課長】

本町が直面する人口減少に対応するため、篠栗町人口ビジョンにて目標を掲げ、第2期篠栗町まち・ひと・しごと創生総合戦略にて実行中である。町民や民間企業・各種団体等・行政が協力し合い、さまざまな計画や事業に取り組んでいる。

「高齢者のイス」の提案については、約3000人の行政区独自の取り組みで、住宅の花壇

や外壁のてっぺり・段差などに表示板を取付け、休憩場所とされている。

本町は7割が山林であり、坂道も多数存在する。そして、このような取り組みは地域住民同士の協力やつながりが必要不可欠であり、その観点からの提案と認識している。

地域担当職員や自治体の取り組みを情報収集し、協働のまちづくりの観点からも、どのような施策や対応が可能であるかも踏まえ、篠栗町においても実現を目指して取り組みたい。

高齢者のイス



「大野城市 住宅の花壇を利用した高齢者のイス」



荒牧 泰範

教育長の教育方針は

教育長「町民の命を守るささぐりづくり条例を基盤に推進する」

問

ゆとり教育による日本の生徒・児童の学力低下が問題となり、文部科学省も脱ゆとり教育に舵をきり、レベルの回復を図っているが、コロナウィルスの蔓延により授業のオンライン化や諸々の活動制限など、一層、教育環境が厳しいものとなっている。

現在の町内の2中学校、3小学校の現場の状況や学力テストの結果などを教えていただきたい。

このたび、未来の人材育成の責任者である教育長に就任され、ご活躍を期待しているが、どのような目標を掲げ、どういった施策で実現していくのか具体的に

的にお示しをいただきたいと思う。



今谷長寛教育長

答【教育長】

小・中学校の国語と算数の令和3年度全国調査では、県や全国平均をほとんど上回っている。

目標と施策の基盤は「町民の命を守るささぐりづくり条例」で、目標は三つある。

1. 「子どもたちの学びが保証される保育や授業づくり」である。主体的・対話的で深い学びを充実させる。

2. 「地域コミュニティの活性化に向けた仕組みづくり」で施策は三つ。

① 篠栗の子どもを地域で育てることへの理解と協力を呼びかけ情報する。

② 地域と学校を結びつけるために地域学校協働本部や学校運営協議会等と学校とを地域学校協働活動推進員を通じての連携。

③ 地域から学校への支援、学校から地域への貢献活動の活性化。

3. 「乳幼児からの子育てに教育的支援を加えること」で施策は三つ。

① 篠栗町立幼稚園に育児教育推進担当を任命。

② 「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」の実現にむけた情報交換。

③ 子育てサロンや乳幼児健診の折に就学へつながる教育的支援。

以上の目標と施策を中心に篠栗町の教育行政を推進していく。

問

学校間や地域間の順位を出すのはよろしくないとのことだったが、私はハッキリ数値化して競い合い、教育水準を上げるべきと思うが。

答【教育長】

数値化して競い合い、教育水準を上げることについては、好ましくないと思う。

ゼロカーボンシティの概要は

町長「再生可能エネルギーによる地域内の経済循環」



村瀬 敬太郎

問

篠栗町は、ゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素先行地域を目指しているが、概要はどのようなものか。

答【町長】

令和3年9月議会でゼロカーボンシティ篠栗宣言をしたが、これは、ソフト事業、ハード事業の連携により脱炭素のまちづくりを目指すということである。

答【都市整備課長】

一酸化炭素等の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標と同時に、地域の課題も解決しようと考えている。

問

まず、防災・都市計画・公共交通および高齢化社会、次に地域経済活性化・町内雇用安定、および町民所得の上昇等を取り入れた先行地域の提案を環境省に行う。
令和5年度中の提案を目指している。

町民への影響やメリットは。

答【都市整備課長】

日常生活の中で、省エネ製品の購入や節電、ごみの削減や資源リサイクル等、これまで以上の協力をお願いすることになる。

メリットは、住宅の省エネ化とともに、屋根貸し等で太陽光パネル設置と蓄電、余剰電力を地域電力会社が買い取ること、電気料金の低減化が図られる。

問

再生可能エネルギーの施設や機器の設置が必要になるが。

答【都市整備課長】

環境省の情報では、潜在的に太陽光、風力、中小水力の発電が示されている。また、バイオマス発電も有効と考える。

問

旧焼却場の撤去や再利用はできないか。

答【都市整備課長】

将来、民間事業として旧焼却場を解体し、跡地にバイオマス発電所を設置できればと考えている。

答【町長】

環境省の指針に基づき、地域再生エネルギー会社をSPC（特別目的会社）という形で、町も出資して、あるいは地域の事業者から出資を募って作るようになる。

そのSPCが地域電力会社を作って、篠栗町全体の46億円の電力料金の中の20億円でもSPCの電力によって地域の経済循環に貢献できれば、20億円が外に出ず、町内、あるいは町内出

資された企業の中で循環するという壮大な計画になっている。

木質バイオマス発電もSPCが主体として取り組むことになる。

まずは全体ビジョンを作り上げ、環境省に先行地域として提案ができるように取り組みを進めたい。

ランドセルなど、登下校時の持ち物の配慮は

教育長「定期的な見直しで負担軽減に努めていく」



田辺 弘之

問

4年前にも「登下校の持ち物について」質問を行った。ランドセルが重たいとの声が多くあり、文部科学省は「児童生徒の携行品に係る配慮について」を自治体に送り、学校は少しでも登下校時の持ち物を減らすように工夫をした。

しかし、なかなか改善されたとはいいがたく、保護者からは子どもの腰痛などの声も聞かれる。

これらをふまえて、次の質問を行う。

①各学校での現在のランドセルや通学かばんの重量の把握、認識は。

②町内の各学校での取り組みは。

③今後に向けての対策。

答【教育長】

①ランドセルに教材を入れると約4kg。体操服や給食エプロンなども合わせると、5kg近くまでなる。

ランドセルが重くなつてしまつと、バランスを保とうと前傾姿勢をとり、無意識に上を向きがちになり、首を痛めたり、肩こりや腰にも負担がかかり、腰痛の原因になることも認識している。

②小学校は、学年に応じた置いて帰つてよいものや、あらかじめ持つてくるもののリストを学級だよりなどで知らせ、負担軽減に努めている。

中学校は、リストの作成はないが、家庭学習で使用しない教材は、置いて帰ることを認めている。

③定期的な状況の把握と見直しを行い、負担軽減に努めていく。今後のデジタル教科書の導入でさらに負担軽減につながる

がと考えている。

問

GIGAスクールで使用する教材の家庭パソコンでの使用は可能なのか。

答【学校教育課長】

個人個人に配布されているIDやパスワードを使うことで、家庭の所有パソコンやタブレットを使って、学校で1人1台配布しているパソコンのように使うことが可能。

問

教材等の詰め方や背負い方で腰にも負担が軽くなるのではないか。

特に低学年に対して、授業参観などで、親子で重さを体験しながら体感していくなどの工夫は可能か。

答【教育長】

なぜ軽く感じるのか、原理を考えるとところに教材としての意味もある。保護者と一緒に考えたりすることは重要なので、各

小学校や家庭にも提示したい。



篠栗校区内の住宅地開発による 児童生徒数増加に対するインフラは

町長「教育環境整備は万全を期して対応
しなければならない」



岩下 勝正

現在篠栗地区で住宅地の開発が進んでいる。
高田地区100数戸、中町地区40数戸、計150数戸が予定されている。
人口増加という点では大変喜ばしい事である。
国勢調査の統計上、住宅取得年代の平均が38歳から40歳、また子どもの数の平均では一世帯当たり1.7名となっている。
この統計を参考にすると来年度、中学校の新入生や転校生が相当数見込まれる。
篠栗小・中学校の受け入れインフラについてどう対応しているのか尋ねる。

問 来年度の児童生徒数増加に対しての校舎施設は充足できるか。

答【学校教育課長】 毎年10月に人数調査を行い事前予測し、教室の分割や増築の検討を行う。

問 各学校の教職員の補充は速やかに対応できるか。

答【学校教育課長】 各学校の教職員の確保、配置は県教育委員会の業務である。

問 学童増加にともなう通学路の安全面を考慮した通学ルートの再構築は。

答【学校教育課長】 教職員が実際に周辺環境、交通量、危険箇所を調査し、安全ルートを決定する。

地域担当職員（地域サポーター） 制度の活動状況は

町長「いかに考え行動するかを学ぶ機会
になればと思う」

問 地域担当職員が配置され、各区にとつては非常に有難く、高評価を得ている。

各区から持ち帰られたさまざまな情報や問題点をどのように共有し、集約をされているのか尋ねる。

答【町長】 任命された職員が、この取り組みに身を置くことで、篠栗町職員として、いかに考え行動するかを学ぶ機会になればと思っている。

答【総務課長】 地域担当職員による連絡会議を毎月1回区長会の翌週に開催し、情報共有を行っている。

町内の山間地、市街地等の地域特性や区自治会加入状況等、さまざまな課題を検討し、適宜対応している。



地域担当職員の活動風景

水利権者の了解なしに県に申請したのはなぜか

都市整備課長「地権者との協議が難航していることを理由に拒むことは出来ない」



横山 和輝

問

二トリ上部で建設中の物流倉庫開発について、当然、町は開発許可申請に対し事前審査を行い、全容の把握及び調査を行われていたと思う。

この開発に伴う排水量の増加分は、下流の極楽溜池に流入することから、管理者と開発業者との間で協議があった。

また、開発申請書の提出が行われるということは、両者間で合意があったと認識している。協議の経緯と合意の内容を尋ねる。

答【都市整備課長】

協議は当事者間で行われたも

のであり、町は把握していない。また、開発行為者側が提示する計画内容に隔たりがあり、合意形成に至らなかった。

開発申請書が提出されている以上、協議が難航していることを理由に受理を拒むことは出来ないとは判断した。流下経路の中に、極楽溜池があるが、その部分はネックにはなっていない。

問

今まで、町は開発申請が提出される際に、周辺地権者の協議や合意関係なしに県に申請していたのか。

開発を行う上で、ネックになる、ならないの問題ではなく、すでに降雨により溜池に排水されている。管理者と合意もせず、開発業者は無断使用していることになるが。

答【都市整備課長】

町は開発に対して許可権者ではないので、基準に則り、県の審査を受けて許可している。その部分が適正と認められていた

ので、現在、開発行為が行われている。

当然、開発行為においては、地元の方々とも円滑な合意形成が図られるように努めていくこと、もしくは紛争がないように開発の段階で、事前協議の中でも指示をしている。

問

開発申請が提出される直前に、町長が地元関係者に対し「未解決事項は、町の責任として対応する」と説明しているのはなぜか。

開発業者が対応しなければならぬことを町が肩代わりするとは思えないが。

答【町長】

物流倉庫が出来たこともあるが、大雨が降った場合、地元の方から全体として心配があるから何とかならないかとの相談を受けて、一つ一つ解決していくと話している。また、機会を設けて説明したほうがいいと思う。



極楽溜池

若年層の低投票率対策は

住民課長「有効な選挙啓発を模索していく」



栗須 信治

昨年、10月に行われた衆議院選挙の投票率は、55.93%で戦後3番目に低かった。投票率が最も低い20代では、36.50%だったのに対し、最も高い60代では71.43%と、約2倍の開きがあった。

他の世代に比べ、若年層の投票率が低いことが顕著であり、特に20代の投票率は毎回、全世代を下回っている。

多種多様な世代からさまざまな声を受け止め、政策に反映させるために、若年層の選挙への参加を促すような環境づくりが必要であり、若年層の投票率の上昇こそが、全体の投票率の底上げになるものと考えている。

問

現在の若年層の低投票率に関し、どのように認識され、問題があると考えているか。

答【住民課長】

若年層の投票率向上は、全ての選挙管理委員会の共通した課題であると認識している。若年層に限らず、全般に投票率が低くなっており憂慮すべき問題である。

問

若年層の投票率を上げるため、どのような取り組みが必要だと認識されているか。

答【住民課長】

毎年、明るい選挙を呼びかけるポスターコンクールへの応募作品を小中学校をとおして募集している。入選作品は、選挙啓発に活用し児童生徒からも好評を得ている。

子どもの頃から、選挙や政治を身近に感じることが重要であり、その経験が関心を高め、将来の投票に結びつくものと考えている。

る。今後とも、教育委員会や関係機関と連携し、選挙啓発に努める。

問

主権者教育は、義務教育段階で選挙など基本的な政治学習が必要だという指摘もあるが、教育長の見解を尋ねる。

答【教育長】

小中学校の学校教育では、社会科の授業で政治の仕組みと考え方の学習をするほか、児童会・

生徒会活動や学校行事をとおして体験的な学習を行っている。

また、総合的な学習の時間や校外活動、学校ボランティアとのかかわりや、子ども会や地域行事への参加によって体得し、地域社会によって家庭生活が成り立っていることを自覚させることなど、社会教育諸団体への啓発や家庭教育の充実に向けて支援していきたい。



ポスターコンクール入賞作品（最優秀賞）

火災時の初期消火（消火栓）対応は

総務課長「多くの人が消火栓を使用できるよう取り組む」



古屋 宏治

初期消火とは、火災による被害を最小限に食い止めるための消火活動のことです。初期消火が可能なのは天井に火が回るまでと言われている。火災現場の近くにいる人々が消火栓を利用し、圧倒的な水量で消火することが最も有効と考え、以下の質問をする。

か。また、設置基準は。

【総務課長】

消防水利の設置基準を充足している。

【総務課長】

初期消火器具の管理は、それぞれ区長が行うとなっており、消防団各班が行政区と協力し、消火栓や自然水利等ボックスも含め、2～3か月に1回程度点検をしている。

【問】

消火栓の使用方法についての周知は。

【総務課長】

行政区や自主防災組織等に対し、消防団から積極的に呼びかけ、より多くの人が初期消火時に消火栓を使用できるよう取り組んでいきたい。

【問】

町内の消火栓の数は。

【総務課長】

水道給水区域に344基。

【問】

消火栓の数は足りているのか。

【問】

ボックスの名称はバラバラであるが正式名称は。また、統一されては。

【総務課長】

全国的に統一した名称が無いため、町で統一した名称を決め順次記載していきたい。

【問】

消火栓・ボックスは年に何回点検されているのか。

【総務課長】

ホースが2本から3本、スタンドパイプ、筒先、消火栓の蓋およびバルブの開閉器具。

【問】

消火栓とボックスの位置が分かるよう矢印をつけては。また、管理の面から番号をつけては。

【総務課長】

原則わかりやすい所に設置しているが、位置関係が分かりにくいものには矢印を設置したい。また、管理しやすい方法でボックスに付番を付けたい。

【問】

消火栓のない地域には消火器を設置しては。

【総務課長】

重要な事だと思つので検討したい。

【問】

消火栓の取り扱いについて区長へ投げかけては。

【総務課長】

区長会へ投げかけ、消防団へ要望して初期消火の講習会をやっていたきたい。

また、消防団員勧誘にもつなげたい。

輝く まちの宝

令和4年度 福岡県総合防災訓練

5月29日（日）に篠栗町総合運動公園で福岡県総合防災訓練が実施されました。

篠栗町の防災関係機関や地域住民のほかに、消防署、警察、自衛隊など80機関1,100人が参加して、大規模災害発生時の各機関の連携や対応の確認が行われました。



福岡県総合防災訓練



安全・安心な暮らしのため、たくさんの人たちが頑張っています。
私たちも日頃から防災意識を高めておくことが大切です。

旬花衆灯

夏の風物詩「怪談」に登場する妖怪たち。

その存在は自然への畏敬の象徴と言われている。

「河童」は、川遊びの注意喚起、「山姥」「鎌鼬」は、夜の危険を象徴する存在、「ヤマタノオロチ」は、川の氾濫や土石流や溶岩の象徴など。

今では多くの自然現象は科学で証明され、妖怪の役目も失われつつあるが、環境問題を背景に自然災害は深刻化している。自然の恩恵も恐怖も身近にあった先人たちの「目に見えないものへの想像力」は、今こそ必要なかもしれない。

品川 静

9月議会は

9/5日 開会

9/7水 一般質問

の予定です

発行責任者 議長 阿部 寛治

議会広報広聴委員会 委員長 田辺 弘之／副委員長 品川 静
委員 村瀬 敬太郎・栗須 信治・横山 和輝・藤木 高裕

令和4年8月1日発行

発行／篠栗町議会 福岡県糟屋郡篠栗町中央一丁目1番1号 TEL092-947-1390 FAX092-947-1442 印刷／株式会社三光